

2006年2月8日 電話会議

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2006年3月期第3四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

第3四半期は大幅増益、通期目標は水産不振で引き下げ

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2006年3月期第3四半期連結業績と通期業績見込

単位:金額 = 億円 (未満切捨て)	3Q		1~3Q		4Q		通期		
		前年比		前年比	(E)	前年比	(E)	前回(E)比	前年比
売上高	1,269	-3	3,624	+67	1,065	+8	4,690	-75	+75
営業利益	53	+11	131	+10	18	+4	150	-5	+15
経常利益	50	+12	127	+15	17	+0	145	-5	+16
当期純利益	30	+16	57	+1	4	+1	62	-5	+3

1. **売上高**

注:(E)は今回発表した見込、前回(E)は11月1日に発表した見込

第3四半期(10~12月)は加工食品、低温物流が前期比増収、一方、水産の減収幅が大きいいため全体では前期を下回った。

通期では75億円の下方修正、水産は主力商材の取扱いが伸び悩み最需要期の年末に挽回できず苦しい。

2. **営業利益**

第3四半期は前年比大幅増益、調理冷凍食品の増収に加え主原料コストが低下した加工食品と、地域保管が好調な低温物流が寄与。

通期では水産と、機能性素材が低調に推移しているバイオサイエンス(その他)の目標を引き下げ、一方、不動産は幕張のマンション分譲完了で利益が上乘せ、全体では目標を5億円引き下げる。

3. **経常利益・当期純利益**

第3四半期は賃貸用不動産を売却し特別利益が発生、特別損益は2億円のプラス。

通期では営業利益の下方修正により、当期純利益を見直し。

加工食品は増収・増益、水産は黒字転換できず再下方修正

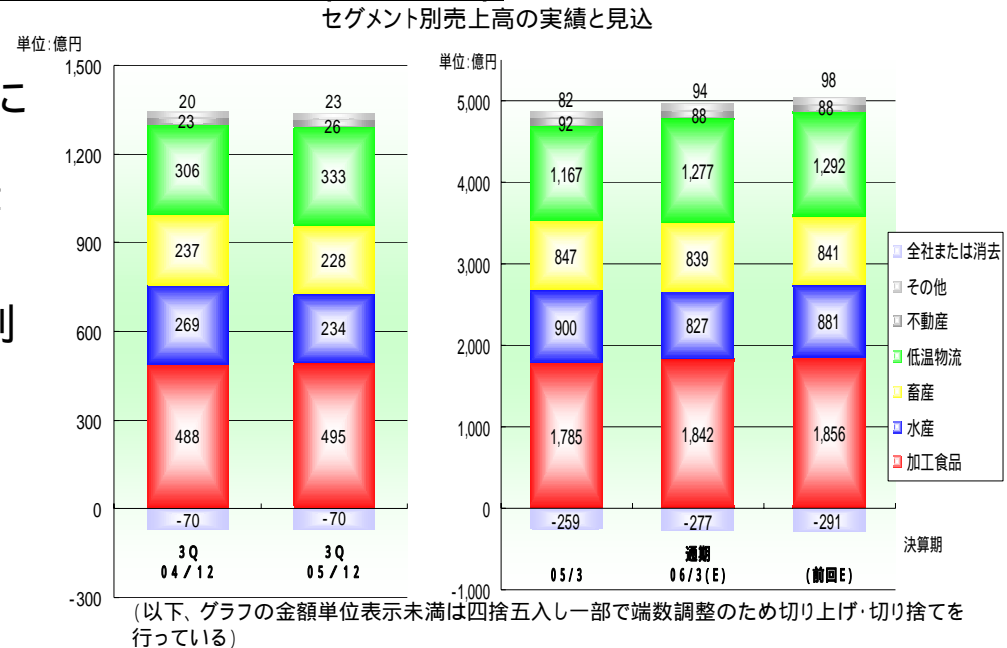
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高と営業利益(その1)

1.加工食品

第3四半期の売上は、調理冷凍食品は順調に推移したものの、冷凍野菜の不振とアセロラの伸び悩みが響き1%増に止まったが、営業利益は7億円の大幅増益となった。

通期では、売上は目標に届かないが、営業利益は調理冷凍食品売上増加による効果と操業度改善効果に加え、主原料価格の沈静化が寄与し、当初目標を達成する見込み。



2.水産

第3四半期は、中間期に取扱い商材の絞り込みと在庫圧縮を実施し、在庫回転を上げることで最需期である年末の売上確保を目指したが難しく、売上・営業利益ともに前年を下回る。

第4四半期も厳しい事業環境が続く、取扱商材を絞り込み適正在庫維持を優先し前回見込みから通期売上は54億円、営業利益は4億円の下方修正に。

3.畜産

第3四半期は、豚肉が米国産牛肉の代替需要や輸入品の品薄感から国産生鮮・輸入冷凍とも順調に推移し増収、一方、鶏肉は輸入チキンの調達価格上昇により需要が減退し減収。

通期も、鶏肉の取扱い減が響き、売上・営業利益目標ともに下方修正。

低温物流は地域保管が好調で通期営業利益目標を達成へ

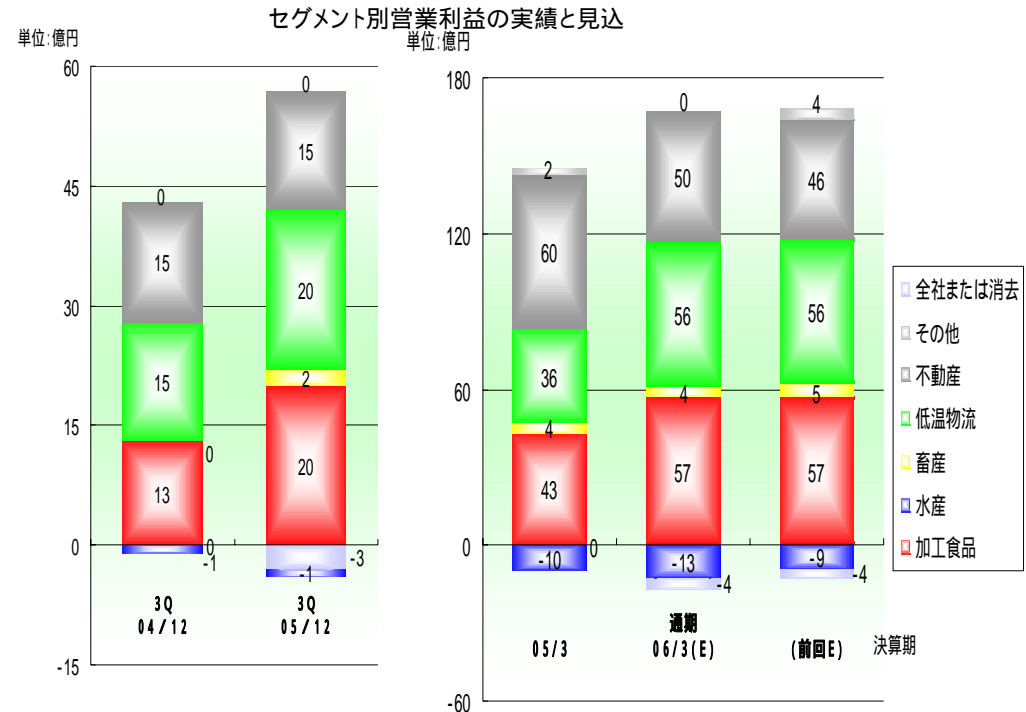
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高と営業利益(その2)

4.低温物流

第3四半期は、物流ネットワークは増収、前年稼働センターの初期費用が無くなり増益にも寄与、地域保管は在庫回転が停滞し入出庫賃収入が伸び悩むが、引き続き地域密着営業による商材の集荷で売上高は横這いを確保、ローコスト化の取り組みに注力し、増益。

通期は、物流ネットワークの運送業務拡大の遅れ、地域保管の冷蔵倉庫閉鎖により売上目標を引き下げるが、営業利益は物流ネットワークと海外の未達を地域保管がカバーし目標を達成する。



5.不動産

第3四半期は大阪市此花区の土地や静岡県焼津市の宅地分譲を実施し、売上・利益とも前期並みを確保。

通期では幕張マンションの分譲完了を見込み、利益目標を上方修正。

6.その他

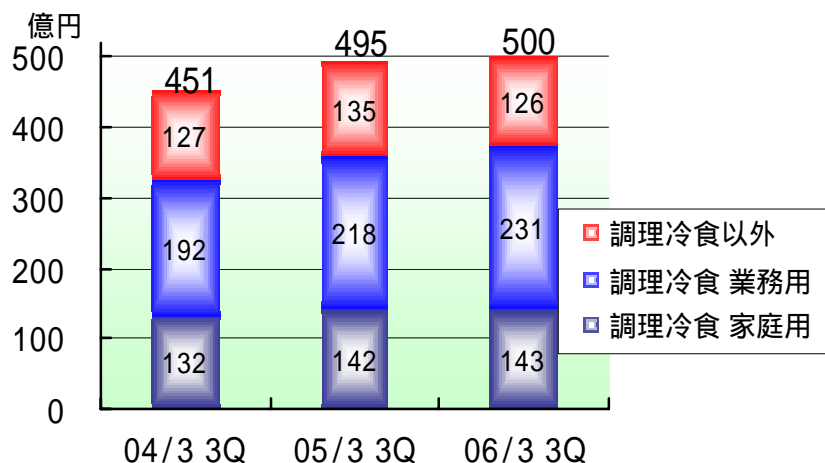
第3四半期は、バイオサイエンスは培地製品の順調な推移や簡易診断薬キットの取扱い増で増収だが利益率の高い機能性素材の販売が低調に推移しており減益、米国のてんぐはBSE問題の長期化により生産を大幅に縮小した状態が続く、通期も売上・営業利益目標ともに下方修正。

調理冷凍食品売上高は業務用が引き続き好調

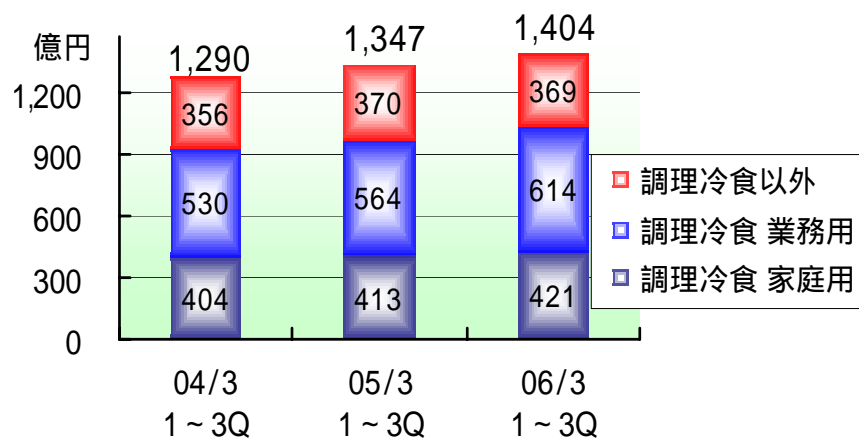
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

第3四半期冷凍食品売上高

冷凍食品売上高の推移



冷凍食品売上高の推移



1. 冷凍食品全般

第3四半期(10~12月)は前年比1%増。4~12月累計では4%増。家庭用・業務用を合わせた調理冷食全体では引き続きチキン加工品が牽引し第3四半期は4%増を実現、累計では6%増。冷凍野菜はポテト類、ブロッコリー類が伸張するも当四半期は前年を下回った。

2. 調理冷食

家庭用:第3四半期は1%増。「ミニハンバーグ」「今川焼」が増収に寄与。『お弁当にGood!』は「ミニハンバーグ」「やわらかひとくちカツ」「衣がサクサク牛肉コロッケ」が好調に推移したものの、シリーズ全体では伸び悩む。

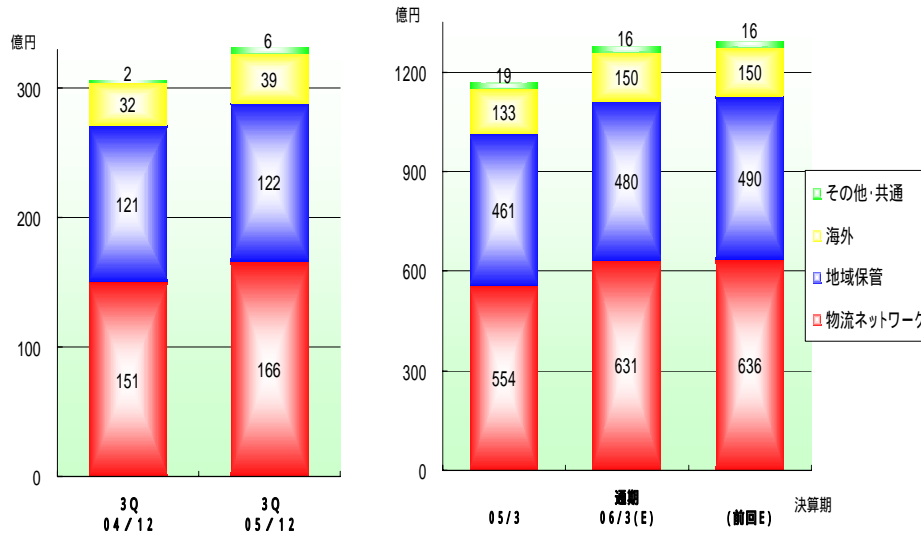
業務用:第3四半期は6%増。「本和風鶏唐揚」などチキン加工品が牽引したほか、惣菜業態向けの『ほっとするおかず』シリーズが増収に寄与。カテゴリ別では、チキン加工品、ハンバーグなど食肉加工品が好調を維持した。

物流ネットワークと海外の目標未達を地域保管がカバー

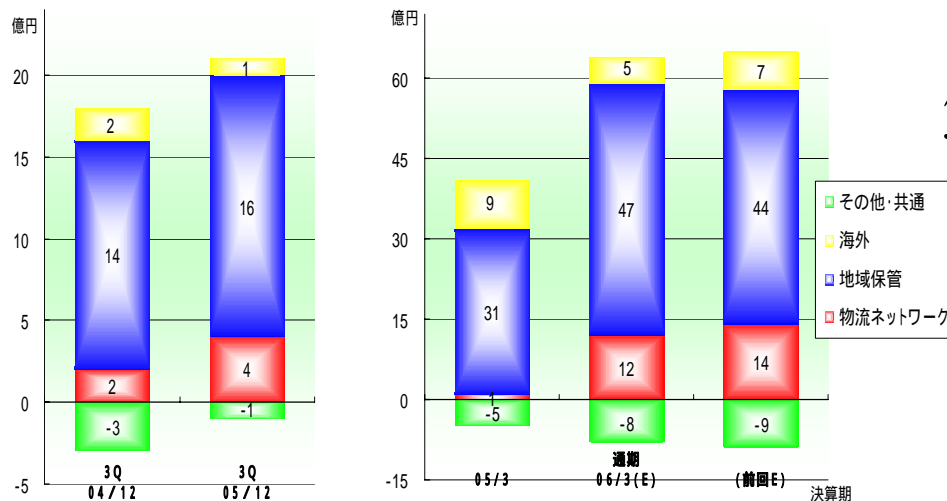
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

低温物流事業のサブセグメント別対前期比増減要因と通期見込

低温サブセグメント別売上高の実績と見込



低温サブセグメント別営業利益の実績と見込



1. 物流ネットワーク

第3四半期は前年度新設稼働センターが寄与し増収・増益、東北地区で新センターも稼働。通期では運送業務の伸び悩みと原油高による運送コストの上昇が利益を圧迫し売上・利益とも目標に届かないが、前年度比では増収・増益。

2. 地域保管

第3四半期の売上は横這い、営業利益は在庫率向上とコスト低減効果で増益。通期は冷蔵倉庫の閉鎖により売上目標を引き下げるが、ローコスト化の取り組みが進み営業利益は3億円の上方修正。

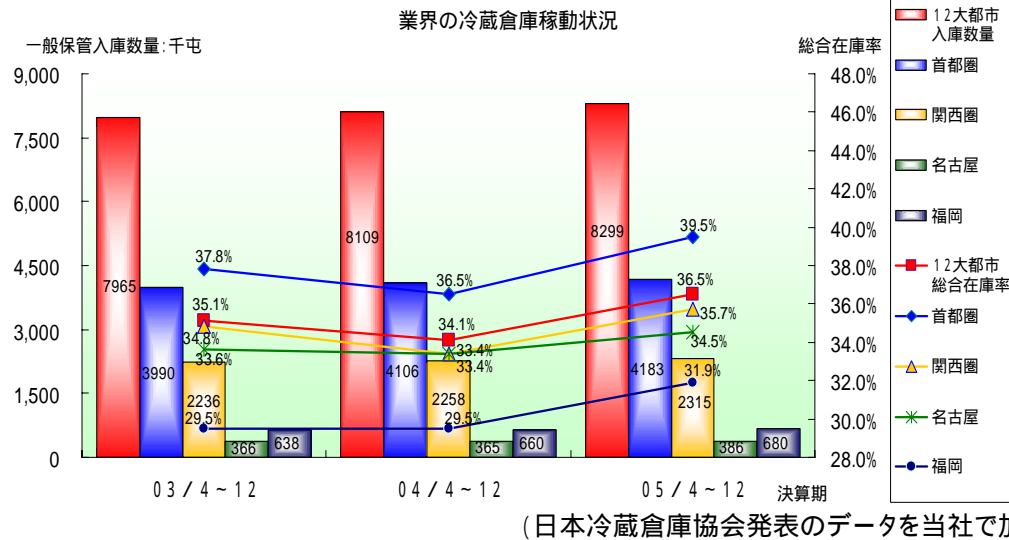
3. 海外

第3四半期は増収だが利益は横這い、通期では増収・減益。果汁取扱い増と運送事業での新規顧客獲得により増収となるも、一部冷蔵庫での荷主撤退後の後荷対策や競争激化による保管料率の下落が響く。

業界・ニチレイグループともに在庫回転が低下

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **ニチレイ**

冷蔵倉庫の稼働状況

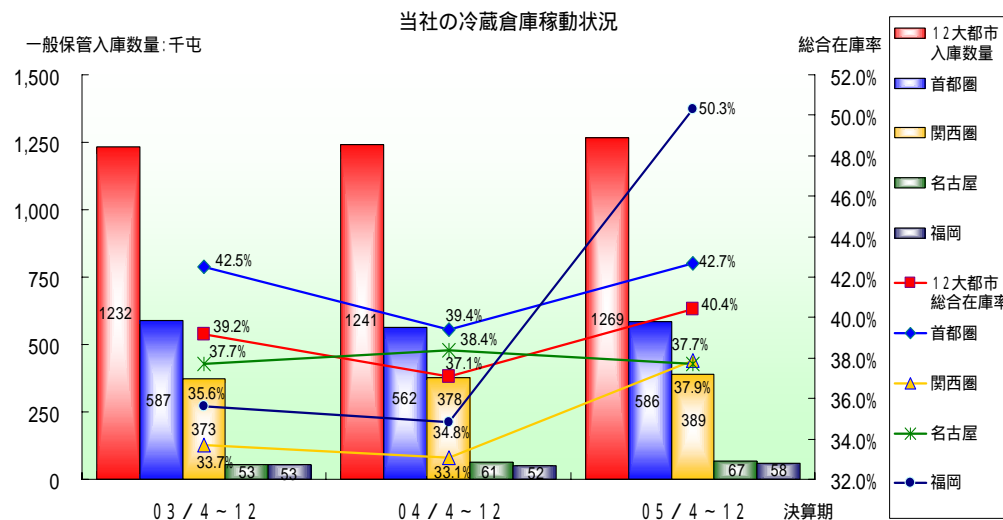


1. 業界の状況

入庫量、在庫率ともに通期では前年を上回る。在庫滞留傾向が続き首都圏を中心に庫腹は逼迫、在庫の回転が低下している。

2. ニチレイグループの状況

在庫率は回復基調であるが、12月に入り首都圏・関西圏を中心に庫腹の逼迫感が強まっており、入庫を受け入れきれない状況となりつつある。



通期の特別損益減は減損会計適用によるもの

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	第3四半期(10~12月)				通期		
	05/12	04/12	増減		06/3E	05/3	増減
【営業外収支】 (主要項目)	- 2	- 3	+ 1	【営業外収支】 (主要項目)	- 5	- 5	+ 0
金融収支	- 2	- 3	+ 0	金融収支	- 11	- 13	+ 2
持分法投資損益	+ 2	+ 3	- 1	持分法投資損益	+ 10	+ 14	- 4
棚卸資産廃棄損	- 0	- 3	+ 2				
【特別損益】 (主要項目)	+ 2	- 12	+ 14	【特別損益】	- 36	- 20	- 15
固定資産売却益	+ 22	+ 3	+ 18				
固定資産売却損	- 4	- 2	- 2				
販売用不動産評価損	-	- 9	+ 9				
事業所閉鎖損失	- 15	- 0	- 15				

持分法投資損益の増減の主な内訳

通期:アールワイフードサービスが 2億円、京都ホテルの持分低下で 1億円、
イナ・ベーカリーが持分法適用から外れ 1億円

賃貸用不動産の売却によるもの

博多、白石の生産工場ならびに博多、札幌の冷蔵倉庫閉鎖によるもの

第4四半期に発生が見込まれる主なものは固定資産売却損・除却損。通期で前期比マイナスとなるのは減損損失37億円によるもの。

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	第3四半期（10～12月）			通期			
	05 / 12	04 / 12		06 / 3 (E)	06 / 3 (前回E)	05 / 3	
		新基準	旧表示			新基準	旧表示
(売上高)							
加工食品	495	488	-	1,842	1,856	1,785	-
水産	234	269	-	827	881	900	-
畜産	228	237	-	839	841	847	-
低温物流	333	306	-	1,277	1,292	1,167	-
不動産	26	23	-	88	88	92	-
その他	23	20	-	94	98	82	-
全社または消去	-70	-70	-	-277	-291	-259	-
合計	1,269	1,273	-	4,690	4,765	4,614	-
(営業利益)							
加工食品	20	13	15	57	57	43	56
水産	-1	-1	0	-13	-9	-10	-6
畜産	2	0	1	4	5	4	8
低温物流	20	15	18	56	56	36	52
不動産	15	15	16	50	46	60	60
その他	0	0	0	0	4	2	3
全社または消去	-3	0	-8	-4	-4	0	-38
合計	53	42	42	150	155	135	135

注：06 / 3 (E) は今回発表した見込、(前回E) は2005年11月1日に発表したもの

：「新基準」は持株会社体制への移行による「グループ経営運営費用」の配賦に伴い、遡及修正した前年数値

：「旧表示」は遡及修正前の前年数値

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

当資料に記載されているニチレイの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただきますようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えることが予想されるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果 など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。